

講師プロフィール

棚川寛子（たなかわ・ひろこ）／舞台音楽家

“楽譜の読み書きが出来ない舞台音楽家”。静岡県在住。演劇作品の音楽作曲のほか、劇中で演奏する俳優指導も行う。静岡県舞台芸術センター（SPAC）制作 2014 年『マハーバーラタ』（フランスアヴィニョン演劇祭正式招聘作品）、2017 年『アンティゴネ』、2018 年『Révélation 顕れ』（フランス・コリヌ国立劇場委嘱作品）、2021 年 ダニエル・ジャンヌー演出「桜の園」劇中曲、2022 年『ギルガメシュ叙事詩』、インクルーシブシアター『ちかくにあるとおく』、2023 年 ジャン・ランベール＝ヴィルド演出『守銭奴』の音楽。また、2017 年には尾上菊之助主演の新作歌舞伎『極付印度伝マハーバーラタ戦記』の音楽を担当するなど、ジャンルを超えた作風は定評がある。

小中学校、特別支援学校、児童養護施設等におけるワークショップや作品作り、ポータブルな本格演劇「テーブルシアター」での活動も展開。正規の音楽教育を受けてないにもかかわらず、この分野でのアウトサイダーアーティストとも言える稀有な存在である。

「私にとって音楽は手段のひとつです。音楽だけで完結することに目的を見いだせないと言うか……台本があって、人間がいて、身体があって、言葉がある。役者、美術、照明、衣装、音響、大人、子ども、全てが活かしあってひとつの音楽になればいいと思っています。私がつくりたいのは曲ではなくて、ただ心の動かされる瞬間なのかもしれません。」

引用元：

https://performingarts.jp/art_interview/1801/1.html



本多麻紀(ほんだ・まき) / 講師サポート・俳優

東京都出身。1998 年ク・ナウシアターカンパニー入団。主宰の宮城聡の芸術総監督就任に伴い、2007 年より静岡県舞台芸術センター(SPAC)にて主に活動中。以降、国内外の多くの作品で主演もしくは主要キャストを務める。

ひとつの役を「動き手（ムーバー）」と「語り手（スピーカー）」に分ける宮城聡演出手法「二人一役」では多くの作品で語り手を担当。情感の伝わる明晰な語り口にも定評がある。

映像、舞台ともに外部出演も多数。

近年の主な出演作品「アンティゴネ（アンティゴネ役）」、「天守物語（姫川図書之助役）」、「冬物語（ポーリーナ役）」、「真夏の夜の夢（そぼろ役）」（以上、演出 宮城聡）、「わが町（ウェブ夫人役）」（演出 今井朋彦）、「高き彼物（野村市恵役）」（演出 古舘寛治）、「病は気から（後妻ペリー役）」（演出 ノゾエ征爾）、「KUNIO14 水の駅（女役）」（演出 杉原邦生）等。

また"舞台の感動をカバンに詰めて「出前」する"テーブルシアターにも参加し、『土神と狐』等にも出演。

猫派。お茶好き。

<https://spac.or.jp/>

<https://www.tabletheater3.com/5yj7cxggd1>



森山冬子(もりやま・ふゆこ) / 講師サポート・俳優

高校、大学で声楽を学んだのち、演劇の世界へと足を踏み入れる。

アイホール演劇ファクトリー第6期生の公演「人魚伝説」に出演し、

翌年には琵琶湖ビエンナーレで上演された劇団金属「曲解した景色」に客演する。

2006年にク・ナウカシアターカンパニーへ入団し、2012年よりSPACへ所属する。

主な作品として、ジャン・ランベール＝ヴィルド演出「妖怪の国の与太郎」、

ジョルジオ・バルベリオ・コルセッティ演出「三文オペラ」、

ユディ・タジュディン演出「サーカス物語」、渡辺敬彦演出「青森県のせむし男」、

宮城聡演出「マハーバーラタ」「少女と悪魔と風車小屋」「真夏の夜の夢」「アンティゴネ」

「ギルガメシュ叙事詩」「人形の家」などがある。

近年には、タニノクロウ演出「蛸入道 忘却ノ儀」、原サチコ演出「ハート泥棒」に出演する。

去年は、SPAC インクルーシブシアター『てあとるてをとる』に参加し、好評を得る。

また、テーブルシアター（棚川寛子主催）のメンバーであり、いくつかの作品に出演している。

様々な声の出し方に興味があり、2017年にはロシア連邦のトゥバ共和国へホームエイを聴きに行く。

首都で行われたホームエイコンクールでは、巻上公一を中心とするグループの一員となり、国際コンテスト現代部門で優勝する。

